

日本語と日本文学

第 56 号



幸田露伴『ケチ』論
—現実を照射する装置としての私小説— ……………王 菁潔 (1)

生徒が書いた文章を読む者における
「真実性」の判断基準 ……………飯田 和明 (左 1)

自然言語生態学
—自然言語の、生命個体発生過程との
相即的相互形成的生成 I— ……………岡崎 敏雄 (左 13)

平成 25 年 8 月

筑波大学日本語日本文学会

投稿規定

一、投稿論文は四百字詰め原稿用紙四十枚（一万六千字）程度。ワープロ原稿の場合はフロッピーを添えて御投稿下さい（原稿とフロッピーは原則としてお返しいたしません）。

一、原稿メ切は毎年二度、二月末日および八月末日。

一、本誌の論文は、附属図書館の電子図書館システムに登録され、全文データベースとして蓄積・利用される。

一、原稿送り先

〒305-8571茨城県つくば市天王台一―一―
筑波大学文芸・言語専攻

『日本語と日本文学』編集委員会

投稿案内

本誌では会員の皆様の御投稿をお待ちしております。

学会機関誌はいうまでもなく、学外のOB、学内の教員および学生の三者が一体となって、該当学問に貢献しうる学問的成果

を公表してゆく媒体として存在するものがあります。従いまして、本誌の一層の充実が多大であります。本誌の価値を高め発展させてゆくためには、これら構成員から質の高い論文の投稿を仰がねばなりません。構成員、とりわけ学外のOBの皆様の積極的な御協力を願う次第です。

投稿は「投稿規定」により、また投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。なお、抜刷の作製料については投稿者の御負担とさせていただきます。御了承下さい。

編集後記

『ハンナ・アーレン』という哲学者を描いた映画が好評だとか。強制収容所体験を持つこのハイデッガーの門下生は、ナチスのアイヒマンの裁判を見て、彼が平凡な小役人に過ぎないと発言し、烈しい響響を買ったという。彼女の言いたかったのは、組織の論理に盲従する人間がいわば思考停止状態に陥っていること、そしてそういう人

間こそ最も卑劣な悪行の担い手であるということだ。モームの名作『雨』を思えばよく分かるし、今時珍しい話ではない。

かつて、西欧の文芸理論を金科玉条の如く振り翳す研究者の一団が、その教化を企て盛んにマニュアル本を刊行したことがあった。その結果書かれた教式の練習問題の答案宛らの論文の多くは、正に思考停止状態に陥っているとしか思えないような代物であった。しかもその書き手たるや、我こそ「考える輩」と思い込んでいる節があった。始末におえなかつた。辛い思い出がある。（新保記）

平成二十五年八月二十九日印刷
平成二十五年八月二十九日発行

〒305-8571茨城県つくば市天王台一―一―
筑波大学 文芸・言語専攻
編集・発行 筑波大学日本語日本文学会

印刷所 コスミックイマージュ
代表者 大倉 浩

☎〇二九（八七五）八七六三